

平成 27 年度に係る業務の実績に関する評価結果

国立大学法人群馬大学

1 全体評価

群馬大学は、北関東を代表する総合大学として、知の探求、伝承、実証の拠点として、次世代を担う豊かな教養と高度な専門性を持った人材を育成すること、先端的かつ世界水準の学術研究を推進すること、そして、地域社会から世界にまで開かれた大学として社会に貢献することを基本理念に掲げている。第2期中期目標期間においては、基礎知識に裏打ちされた深い専門性を有する人材の育成や国内外の大学・研究機関と連携して先端的研究を推進し国際的な研究・人材育成の拠点を形成することなどを目標としている。

この目標達成に向け、学長のリーダーシップの下、社会情報学部において、メディア、コミュニケーション、情報をキーワードにカリキュラムを全面改訂するとともに、内分泌代謝学の分野で世界的にトップレベルの海外研究組織の海外ラボラトリーを招致しているなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

第2期中期目標期間においては、次のような「戦略性が高く意欲的な目標・計画」を定め、積極的に取り組んでいる。

- 特色を活かしつつ、重粒子線医学研究を推進し、優れた研究教育拠点の形成等を目指した計画を定めている。

平成27年度は、研究面では、治療効率化のため、実測に代わる計算アルゴリズムの開発とデータベースを構築し、高精度・高速自動位置決めアルゴリズムの開発を行っているほか、教育面では、教育研究環境の整備のため、モンテカルロ型線量-DICOM変換システムや三次元放射線治療計画装置等を整備している。

- 強みを有する統合腫瘍学や内分泌代謝学等の先端研究分野において、世界水準の研究力を強化するため、先端的な研究組織（未来先端研究機構）を設置して、海外から優秀な外国人研究者を招へいし、国際共同研究を推進するとともに、機動的・戦略的な法人運営を行うため、教員を全学的に一元管理する「学術研究院」を設置する計画を定めている。

平成27年度は、放射線医学研究において世界のトップランクの研究教育診療病院であるマサチューセッツ総合病院（米国）の放射線腫瘍学研究室及びバイオイノベーションの世界的拠点であるリエージュ大学（ベルギー）等を未来先端研究機構において招致し、国際共同研究を推進している。また、患者の診療情報と観察研究に関する情報を集約し、効率的な試料の管理やデータ解析が可能となる臨床研究支援システムを整備している。

大学の機能強化に向けた取組の状況について

戦略的な人員配置を可能にする取組として、新たに生じた欠員をすべて学長（役員会）の裁量とし、34名を学部等の将来構想を踏まえて再配置している。また、年俸制の適用範囲について、学部等を主担当とする教員や任期の定めのない教員についても適用を拡充した結果、163名（全教員の19.0%）が年俸制適用職員となっている。

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特筆	順調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化				○	
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成のためにはやや遅れている

(理由) 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるが、附属病院における医療安全管理体制の重大な欠陥に係る改善が十分になされていないこと等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 将来構想を踏まえた戦略的な人員配置の実施

退職者・転出者の教員ポストについてすべて学長（役員会）の裁量とし、学部等からの改革計画の提出を求め、役員会で審査の上で人員配置を行っており、34名を学部等の将来構想を踏まえて再配置している。

○ テニュアトラック制度の普及・推進

先端的研究に参画する若手研究者の研究環境を整備することにより、人材の流動性を高め、優れた世界的研究拠点の形成につながるプロジェクト型研究の推進を図るため、学長を総括責任者とする「群馬大学テニュアトラック普及推進室」を設置し、全学のテニュアトラック制度の普及・推進を図っており、平成27年度は5名の教員を採用している。

平成27年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

○ 医療安全管理体制の重大な欠陥に係る改善の徹底不足

平成26年度評価において評価委員会が課題として指摘した、医療安全管理体制の重大な欠陥について、ナンバー内科及び外科診療体制を廃止し、内科診療センター及び外科診療センターに統合しているほか、コンプライアンス推進計画の立案、教育・研修の企画と管理を行う病院コンプライアンス推進室を設置するなどの改善に向けた取組が行われているが、治療内容等に係る説明同意文書の記載内容の統一化について周知徹底がなされておらず、必要記載事項が一部漏れている事案があったことから、改善に向けた取組が十分に徹底されていたとは言えない。

また、学長の退職手当について、当該学長が先頭に立って診療体制の見直し等を行ってきたものの、当該事故等の要因について医療事故調査委員会において調査中であるにも関わらず、その結果及び関係者の処分を踏まえることなく、それに先立って業績勘案率を決定していることに対し、各国立大学の給与等の水準の妥当性を確認する大臣検証においても、「必ずしも妥当であったとは言えないと考える。」とされている。

今後も引き続き医療安全管理体制の強化に向けた取組を一層徹底するとともに、社会からの信頼回復に向けて全学を挙げて取り組むことが求められる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制

【**評定**】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載6事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 知的財産を活用した共同研究等の収入増

産学連携・知的財産戦略室（群馬大学TLO）を中心に、大学が持つ特許に関する企業との共同研究等の推進を行った結果、特許に基づく共同研究等収入は3億9,300万円（対前年度比4,100万円増）となっている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

【**評定**】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載7事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ コンプライアンス教育に係るきめ細やかな支援

「群馬大学における公正な研究活動等説明会及び平成28年度科学研究費助成事業公募説明会」をキャンパスごとに行うとともに、教職員等の出席をより容易にするため、遠隔中継を実施したほか、欠席者に対し、DVDの視聴をさせるなどの受講指導を行っている。また、本説明会後に理解度等調査を行うことで、参加者の理解度を把握するとともに、説明の見直し等を行い、今後の説明会の改善につなげている。

平成27年度の実績のうち、下記の事項に**課題**がある。

○ 個人情報の不適切な管理

医学部附属病院において、患者の個人情報が記録されたUSBメモリを紛失する事例があったことから、再発防止とともに、個人情報保護に関するリスクマネジメントに対する積極的な取組が望まれる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 高度情報社会に対応した人材の育成

社会情報学部において、高度情報社会の課題を発見し、その解決策を科学的な思考と実践的な情報処理やデータの収集・分析によって提案できる人材を養成するため、メディア、コミュニケーション、情報をキーワードにカリキュラムを全面改訂するとともに、これまでの2学科から1学科に改組することを決定している。

○ 世界トップレベルの国際共同研究の推進

大学の強みである重粒子線治療研究や内分泌代謝学研究を世界トップレベルで展開するため、マサチューセッツ総合病院を海外ラボラトリーとして招致し、放射線腫瘍学の研究室に加えているほか、内分泌代謝学の分野で世界的にトップレベルの海外研究組織であるカロリンスカ研究所の医化学研究室を海外ラボラトリーとして招致するなど、国際共同研究を推進している。

○ 研究会の開催や個別研修を通じた現職教員への支援

教科及び学校教育に関して自らの専門性を高めたいという意欲を持つ現職教員等のため、教育学研究科の教員等が持つ専門的な知識や技能をリソースとした研究会の開催や個別研修を提供している。また、長期研修中の現職教員が大学院修士課程の授業を聴講するとともに研究支援を受けられる申合せを群馬県総合教育センターと締結し、実施している。

○ 附属学校を活用した教育学部教員の教育

教育学部教員の資質能力の向上と組織の成長のため、附属学校教員と連携して新任教員研修会や教育サロンを開催し、学部新任教員が教育実習を知る機会を提供している。

○ 地域の幼稚園及び小・中学校への訪問相談の実施

子ども総合サポートセンターでは、県内の幼稚園、保育所、小・中学校の依頼に応じて、訪問相談を実施し児童生徒の理解に基づく指導計画を作成し、学級担任等へコンサルテーションを通して教育支援を行っている。

共同利用・共同研究拠点関係

○ 成人T細胞白血病の発症機構の解明

生体調節研究所では、東京医科歯科大学との共同研究により、HTLV-1ウイルスによって引き起こされる血液のがんである成人T細胞白血病においてがん化した細胞が死に難くなることに関する研究を行い、その仕組みの一端を解明し、世界的に著名な学術雑誌に掲載される等、成人T細胞白血病治療の新たな標的の発見に貢献している。

附属病院関係

(教育・研究面)

○ スキルラボの効果的な活用

医療人能力開発センタースキルラボ部門において、スキルラボのシミュレーターと設備を活用したシナリオトレーニングセミナーや、医療の質・安全管理部との共催による医療機器講習会等を開催している。また、地域医療への貢献を目的として、県内の医療機関・地域医療関係者にもスキルラボを開放するとともに、オープンキャンパスや小・中学生のための医師、看護師、研究者体験コース等の大学が主催する地域貢献活動にも積極的に協力している。

(診療面)

○ がん医療の質向上に資する取組

群馬県内におけるがん医療の質向上のため、2次医療圏の医師を対象とする緩和ケア研修会(34名参加)、群馬県内の看護師を対象とするがん分野における中堅看護師実務研修会(19名参加)、群馬県内のがん登録実務者を対象とするがん登録事務者研修会(90名参加)を開催しているほか、がん患者及びその家族、医療関係者、行政担当者等が交流や意見交換を行う市民講座(院内外177名参加)を開催するなど、がん分野における知識・技術等の向上を図っている。

(運営面)

○ 重粒子線治療を主とする集学的治療の推進

重粒子線治療と併せて、薬物療法、手術、一般の放射線治療などを併用した集学的治療を行う体制を構築しており、治療患者数は平成28年3月までに1,980名(平成27年度:367名)となっている。また、パンフレット配布等の広報や外国人患者受入体制の整備を行うなど、重粒子線治療体制の強化を進めている。